

第 11 回緘黙自主シンポジウム

生涯にわたる場面緘黙の全貌の理解と支援体制の構築に向けて

企画者	浜田貴照（かんもくの会（場面緘黙経験者）） 藤田継道（兵庫教育大学名誉教授）
司会者	藤田継道（兵庫教育大学名誉教授）
話題提供者	小橋さつき（場面緘黙成人当事者の家族） 入江紗代（かんもくの声（場面緘黙経験者））
指定討論者	奥田健次（行動コーチングアカデミー）

KEY WORDS: 場面緘黙、生涯支援、当事者の取り組み

【企画趣旨】

かんもくの会は10年前の2007年度本学会神戸大会よりシンポジウムを始めた。ちょうどその頃、当会に、今回の話題提供者の一人である小橋さつき氏が入会してこられた。小橋氏は、当時23歳の娘が幼い頃から場面緘黙であり、不登校などを経て、自宅に引きこもった状態になっていた。私の場合は、緘黙を引きずって苦しい思いをしたが、曲がりなりに社会に出ていた。しかし、当事者の中には、もっと強い場面緘黙のままで、成人後も社会に出られなくなっている人たちがいるのではないかと推測していた。小橋氏の子の状況を知り、初めてそれが現実であることが裏付けられたのであった。しかもその状況は想像を上回るものであった。その後も同様の状況の当事者の家族の入会が相次いだ。これらの重篤と考えられる緘黙当事者の状況が本人から伝えられることは大変難しいであろう。私が活動を持ってきた最も大きな理由は、自ら訴えることが難しい人たちの存在を社会に知ってもらいたいことに他ならない。小橋氏の話題提供によって、生涯に及ぶ可能性のある、場面緘黙の様々な時期における様相と課題が理解され、支援の糸口を考えて頂くきっかけになることを願う。

もう一人の話題提供者の入江紗代氏は、場面緘黙経験者として「かんもくの声」というインターネットサイトを開設しておられる。2015年より様々な立場の人々、支援団体等が参加するイベント「かんもくフォーラム」の開催を提案・企画するなど、精力的に場面緘黙の理解・啓発活動を展開しておられる。入江氏には、ご自身の緘黙の経験や現在の活動の様子と、それから得られた問題意識などをお話しして頂く予定である。皆様には当事者としての運動の重要性を知って頂くのと同時に、また、緘黙の特性を考えれば、これほどの運動を行うのは大変勇気のいることと推察されるので、過度の負担がかかるとなく運動を続けていられるよう、知恵とお力を貸して頂けることを期待する。

<話題提供>

【小橋さつき】

32歳の娘は家庭でもほとんど話をしない、全緘黙と言ってもよい状態である。小学5年生のとき不登校となり、それ以降、登校・不登校を繰り返し、20歳からはひきこもり状態となり現在に至っている。娘が保育園に通う頃から、家の外では話さないことを、母である私は常々心配していた。その状態に場面緘黙という名前が付いていることを知ったのは、娘が小学4年生の頃。娘は医療機関や相談機関へ通うことを全て拒否したため、私が様々な医療機関・相談機関へ通った。間違った指導を受け状態が悪化したこと

もあり、全緘黙に近い状態が20年近く続いている。娘のように緘黙から脱することが出来ず、社会に埋もれ、支援から漏れてしまっている者が現実にいることを知っていた。ありがたい。「場面緘黙は成人すれば治る」となどと安直に考えていただきたくない。その思いを届けたく、話題提供させていただき、そして、娘の経過の中から課題を拾い上げていただき、全国におられるであろう緘黙状態から脱することが出来ずに苦しんでいる当事者へと支援の手が差し伸べられることを望んでいる。

【入江紗代】

私は入園から27歳頃まで場面緘黙傾向が強く、説明し難い生き辛さを抱えてきた。学校など家庭以外の場で全く話せないわけではなかったが、自分を外界へ表現できない時期が長く続き悪循環から抜け出せなくなっていた。また、20歳前後には様々な心身の不調が起きてきた。成人後、場面緘黙を偶然知ったことで、衝撃を受けつつも自身の抱えてきた困難を整理し、場面緘黙という新たな視点・言葉を通して捉え直そうとしてきた。また、自身の自己表現・場面緘黙の認知や理解のため当事者独自かつ私らしい発信や活動を模索しながら行ってきた。話せるようになった現在も克服したという実感は持っていない。場面緘黙とその二次症状や後遺症と思われる経験、就労など話せるようになった後も続く成人当事者としての社会的困難、緘黙気質を持ちながらの活動における困難や気づき、今後の課題などをお話させていただければと思っている。

<指定討論>

【奥田健次】

上記の話題提供を受けて、当事者の実情をシンポジウム参加者がよりよく理解できるよう議論を展開し、また生涯支援に焦点を当てた議論を行う。

（文献）・McHolm,A.E., Cunningham,C.E.& Vanier,M.K. (2007) 「場面緘黙児への支援」(河井英子・吉原桂子/共訳)：田研出版

・「緘黙症体験記集」：かんもくの会編
(HAMADA Takateru, FUJITA Tsugumichi, KOHASHI Satsuki, IRIE Sayo, OKUDA Kenji)